

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・韓国で下方修正も、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

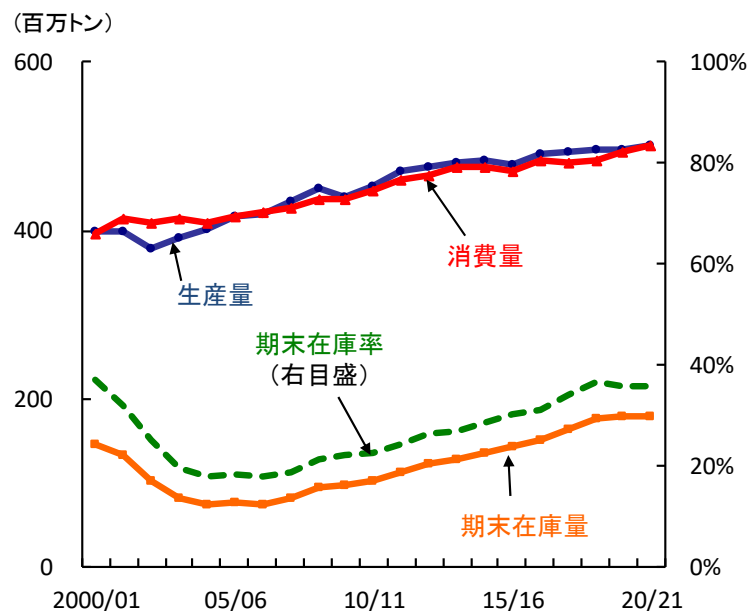
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・ナイジェリア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・インド等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



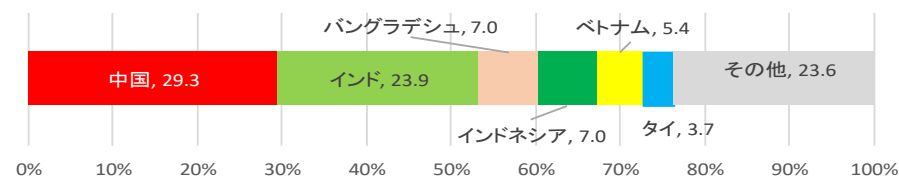
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

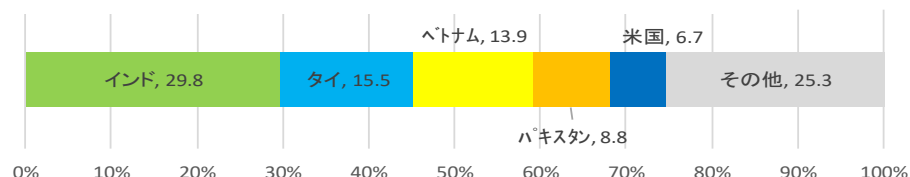
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	497.0	496.1	501.2	0.1	1.0
消費量	484.4	494.8	500.4	1.2	1.1
輸出量	43.9	42.8	45.3	1.0	5.8
輸入量	44.1	42.0	42.5	0.4	1.2
期末在庫量	176.9	178.2	179.0	▲ 0.8	0.4
期末在庫率	36.5%	36.0%	35.8%	▲ 0.2	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2020)

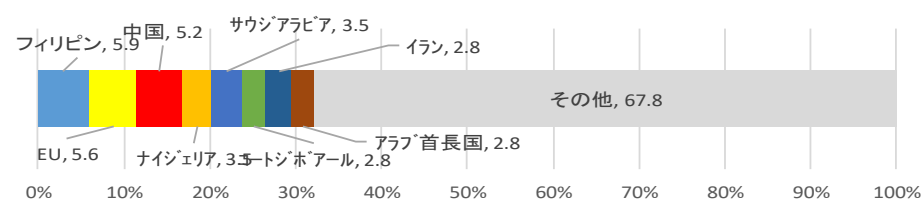
○ 2020/21年度 世界のコメの生産量 (501.2 百万トン) (単位：%)



○ 2020/21年度 世界のコメの輸出量(45.3 百万トン)



○ 2020/21年度 世界のコメの輸入量(42.5 百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 >

【生産動向】米国農務省（USDA）によれば、前月予測から変更はなく、対前年度比 22.5% 増の 7.2 百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の生産量は全体の約 25% を占める。

11 月中旬には概ね収穫は終了したとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、輸出量は、年度前半の輸出ペースの低下が継続していることから、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたが、対前年度比 1.0% 増の 3.0 百万トンの見込み。輸入量は、中国から米領プエルトリコ向け輸入量が減少したことからわずかに下方修正され、対前年度比 2.5% 減の 1.2 百万トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度の実産量は、モンスーンの降雨に恵まれ、前月予測から変更はなく、対前年度 1.3% 増の 120.0 百万トンの見込み。

モンスーンによる降雨に恵まれ、カリフ米は概ね収穫が終了した。

インド東部・南部では、カリフ米の収穫後、ラビ米の作付けが開始されており、12 月 4 日時点の作付済み面積は 1.0 百万ヘクタールと前年同期比 4% 減となっている。

USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、対前年度比 0.2% 増の 106.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、8 月以降の輸出ペースが好調なため、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、対前年度比 8.1% 増の 12.5 百万トンとなる見込み。インド商工省によれば、2020 年 4 月から 9 月の輸出量累計は 747 万トンで前年同期（439 万トン）と比べ 70% の増加。輸出量のうち 239 万トンが高級品質のバスマティ米で、508 万トンが非バスマティ米である。輸出量は、前年度対比でバスマティ米、非バスマティ米とも増加しているが、非バスマティ米の伸びが大きい。

コメー米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米のコメ生産に占める生産シェアは約 2 割

(単位: 百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.9	7.2	-	22.5
消費量	4.6	4.6	4.6	-	1.1
輸出量	3.0	3.0	3.0	▲ 0.1	1.0
輸入量	0.9	1.2	1.2	▲ 0.0	▲ 2.5
期末在庫量	1.4	0.9	1.6	0.0	76.9
期末在庫率	18.8%	12.0%	21.1%	0.7	9.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.18	1.00	1.21	-	21.0
単収(もみt/ha)	8.62	8.38	8.48	-	1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.5	118.4	120.0 (120.0)	-	1.3
消費量	99.2	105.7	106.0 (105.3)	-	0.2
輸出量	10.4	12.5	13.5 (12.7)	1.0	8.1
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	29.5	29.7	30.2 (32.3)	▲ 1.0	1.7
期末在庫率	26.9%	25.1%	25.3% (27.4%)	▲ 1.1	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.16	43.78	44.50 (44.35)	-	1.6
単収(もみt/ha)	3.96	4.06	4.05 (2.71)	-	▲ 0.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
IGC 「Grain Market Report (26 November 2020)」(単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生産動向】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく対前年度比0.2%増の147.0百万トンの見込み。

中国国家统计局の「2020全国糧食生産量データ」（2020.12.10）によれば、コメ（もみベース）の生産量は、前年度比1.1%増の211.9百万トンとなっている。洪水等の影響で単収は減少となったものの、政府の助成政策により作付面積が増加したのが要因。

コメの収穫は11月までに概ね終了した。

USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測から変更はなく、146.5百万トンの見込み。

中国糧油情報センターによれば、とうもろこしの価格上昇に伴い、引き続き、コメの飼料用・工業用需要が増加している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、対前年度比3.8%増の2.7百万トンの見込み。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（10月）によれば、10月の早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカの卸売価格（精米）は、それぞれ3,720元/トン（9月3,700元/トン）、4,200元/トン（同4,180元/トン）、4,220元/トン（同4,280元/トン）。

インディカ米の価格は、精米企業の原料仕入れコストがわずかに上昇したため、前月より上昇したが、ジャポニカ米の価格は、新穀が市場に出回ったため下落した。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	148.5	146.7	147.0 (148.3)	-	0.2
消 費 量	142.9	145.0	146.5 (147.5)	-	1.0
輸 出 量	2.8	2.6	2.7 (2.8)	-	3.8
輸 入 量	3.2	2.4	2.2 (2.2)	-	▲ 8.3
期末在庫量	115.0	116.5	116.5 (112.5)	-	0.0
期末在庫率	78.9%	78.9%	78.1% (74.9%)	-	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.19	29.69	29.80 (30.15)	-	0.4
単収(もみt/ha)	7.03	7.06	7.05 (4.92)	-	▲ 0.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
IGC 「Grain Market Report (26 November 2020)」 (単収は精米t/ha)

※ 一類苗: 生育が正常な苗 二類苗: 通常の苗よりやや小さい苗
三類苗: 病気の苗、弱い苗

< タイ >

【生育・生産動向】

USDAによれば、2019/20年度(2020年1月～同年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、17.7百万トンと干ばつの影響で2018/19年度を12.3%下回る見込み。

2020年の雨季米の収穫は、10月下旬から東北地方で最盛期を迎え、11月中旬に入り晴天となったことからタイ全土で収穫が進展している。

農業経済局によれば、2020年の雨季作の生産量は、作付面積、単収とも増加することから前年度より6.1%増の2.6百万もみトンとなっている。

2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比5.3%増の18.6百万トンの見込み。

11月中旬に晴天となったため、2021年に収穫される乾季米の作付けが開始された。乾季米はタイのコメ生産量の2割程度のシェアを占めてきたが、タイ政府によると乾季の長期化や水不足から、乾季米の作付面積・生産量は4割程度減少すると見ている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、5.5百万トンの見込み。

タイ米輸出協会によれば、2020年1月から10月までの輸出量は、前年度から31.4%減少の448.6万トン。輸出先国は、米国(56.1万トン)、南アフリカ(54.5万トン)、アンゴラ(30.6万トン)の順で、米国、豪州等への輸出量が増加し、ベナン、カメルーン、イエメン向けが減少している。

USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、対年度比27.3%増の7.0百万トンの見込み。

12月に入り、タイ産米とベトナム産米の輸出価格は拮抗している(右図参照)。

コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.3	17.7	18.6 (18.7)	-	5.3	
消費量	11.8	12.0	12.0 (11.8)	-	-	
輸出量	7.6	5.5	7.0 (7.7)	-	27.3	
輸入量	0.3	0.3	0.2 (0.3)	-	▲ 20.0	
期末在庫量	4.2	4.6	4.4 (5.1)	-	▲ 4.3	
期末在庫率	21.9%	26.5%	23.4% (26.2%)	-	▲ 3.1	

(参考)

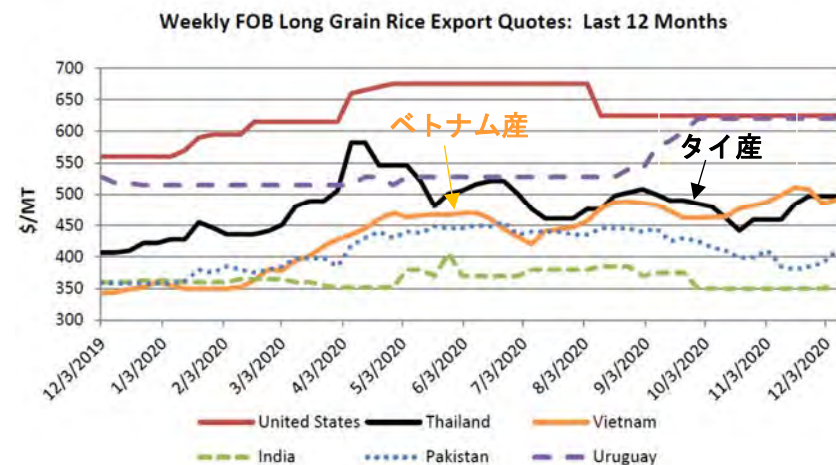
収穫面積(百万ha)	10.83	9.89	10.30 (10.30)	-	4.1
単収(もみt/ha)	2.85	2.70	2.74 (1.82)	-	1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)

IGC 「Grain Market Report (26 November 2020)」(単収は精米t/ha)

図: 長粒種のFOB 価格の推移

12月に入り、タイ産とベトナム産の価格が拮抗



資料: USDA 「Grain: Markets and Trade」(2020.12.10)

<ベトナム>

【生育・生産動向】USDAによれば、現在生産が行われている 2019/20 年度(2020 年 1 月～2020 年 12 月)の生産予測は、前月予測から変更なく 27.2 百万トンの見込み。現在、ベトナム北部の红河デルタで雨季作の収穫が終了し、冬春作の作付が開始、南部のメコンデルタで秋冬作の生産が行われている。ベトナム統計局によれば、作季別の生育状況等は以下の通り。

《雨季作》

収穫が概ね終了した。成長期に天候に恵まれ、単収は前年度並の 5.1 トン/ヘクタールとなるものの、作付面積が 1.6%減少し 1.6 百万ヘクタールとなったことから、生産量は前年度よりわずかに少ない 808 万トンとなる見込み。

《秋冬作》

11 月 15 日時点で、メコンデルタの秋冬作の作付面積は前年同時期とほぼ同じ 72.4 万ヘクタールである。これまでに 38.3 万ヘクタール(昨年同時期比 103.9%)で収穫が行われており、収量は前年の秋冬作は前年度並みの 5.51 トン/ヘクタール、生産量は前年度と同水準の 399 万トン程度になると見込まれている。

《冬春作》

11 月 15 日時点で、北部での冬春作の作付面積は 23.8 万ヘクタールであり、昨年同時期と比較して 68.1%に留まっている。今年の冬春作の作付けは、地方当局が気象予測等に応じて播種の時期を調整しているため昨年よりも遅れている。

ベトナム中部の 10 月の洪水については、7,200 ヘクタールの穀物耕地が被害を受けたが、中部はコメの生産量が比較的少ないため、今のところ、ベトナムのコメ生産全体への影響は少ないとみられている。しかし、メコンデルタの各地方(省)政府によれば、洪水で倒れて長く水につかっていた稲をコンバインで収穫することは困難であるが、その一方で、人力で収穫する人手を十分に確保できないため、収穫が遅れている圃場もある。

USDAによれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～2021 年 12 月)の生産量は、前月予測からの変更はなく、27.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20 年度の輸出量は、価格の上昇等により前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、6.2 百万トンの見込み。また、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.6%増の 6.3 百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2020 年 1 月から 11 月までのコメの累計輸出量は対前年度比 97.1%の 5.70 百万トン。輸出先国別にみると、フィリピンが最も多くシェアが 3 割以上を占め、以下中国、マレーシアの順。中国、ガーナ、モザンビーク等への輸出量が前年度に比べ増加した。

コメーベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	27.3	27.2	27.0 (28.2)	-	▲ 0.6	
消 費 量	21.2	21.3	21.2 (22.4)	-	▲ 0.5	
輸 出 量	6.6	6.2	6.3 (6.4)	-	1.6	
輸 入 量	0.5	0.4	0.4 (0.6)	-	-	
期末在庫量	1.1	1.2	1.1 (3.2)	-	▲ 8.7	
期末在庫率	4.0%	4.2%	3.8% (11.2%)	-	▲ 0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.54	7.47	7.40 (7.47)	-	▲ 0.9	
単収(もみt/ha)	5.80	5.82	5.84 (3.78)	-	0.3	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
IGC 「Grain Market Report (26 November 2020)」 (単収は精米t/ha)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ウルグアイ、カナダで上方修正も、アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

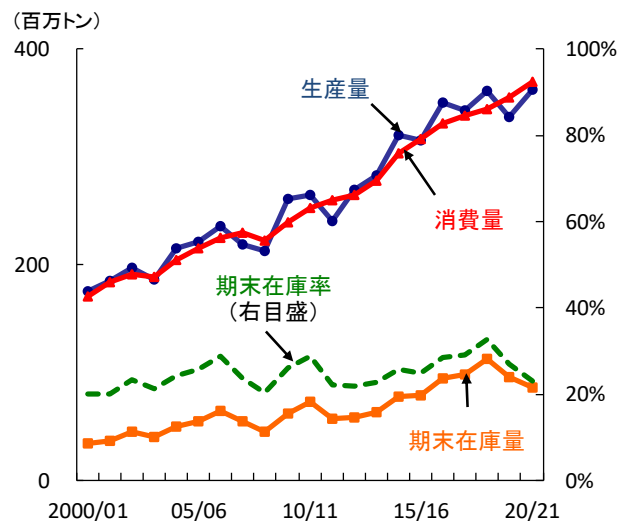
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン等で下方修正も、アルジェリア、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・カナダ、ウルグアイで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2020.12.10）をもとに農林水産省で作成

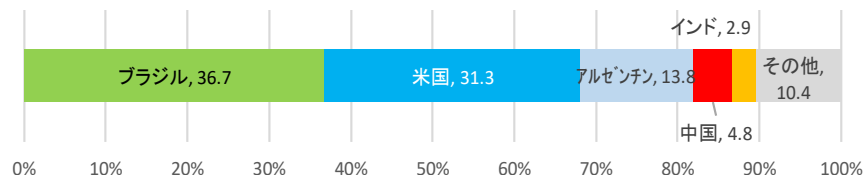
◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

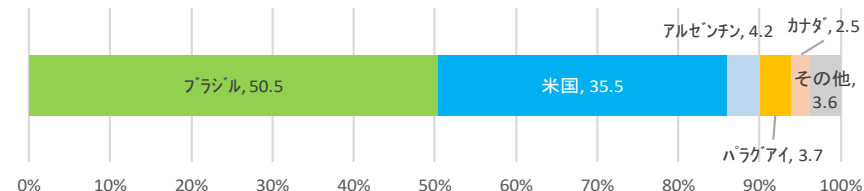
年 度	2018/19	2019/20 （見込み）	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率（%）
生 産 量	361.0	336.5	362.1	▲ 0.6	7.6
消 費 量	344.2	354.6	369.7	0.7	4.3
うち搾油用	298.4	309.3	321.6	0.8	4.0
輸 出 量	148.8	164.6	168.5	0.7	2.4
輸 入 量	145.8	165.5	166.3	0.9	0.5
期末在庫量	112.7	95.5	85.6	▲ 0.9	▲ 10.3
期末在庫率	32.8%	26.9%	23.2%	▲ 0.3	▲ 3.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 December 2020）

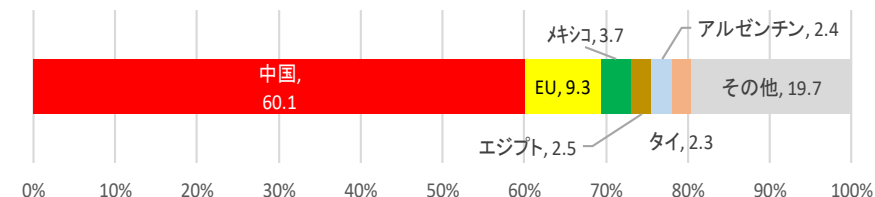
○ 2020/21 年度の世界の大豆の生産量（362.1 百万トン）（単位：%）



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸出量（168.5 百万トン）



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸入量（166.3 百万トン）



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 17.4%増の 113.5 百万トンの見込み。11 月末時点で、収穫は例年より早いペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、魅力的な搾油マージンによる年度当初の記録的な搾油実績から搾油用消費が前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、前年度より 2.5%増の 63.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 31.2%増の 59.9 百万トンと史上最高の見込み。なお、輸出検証高（2020 年 1 月 2 日～12 月 3 日）は、51.9 百万トンであり、内訳は中国（27.9 百万トン）、メキシコ（4.1 百万トン）、エジプト（3.6 百万トン）の順。11 月の輸出検証高では、計 9.5 百万トンのうち、中国が 7.0 百万トンと第 1 位の輸出国となっている。

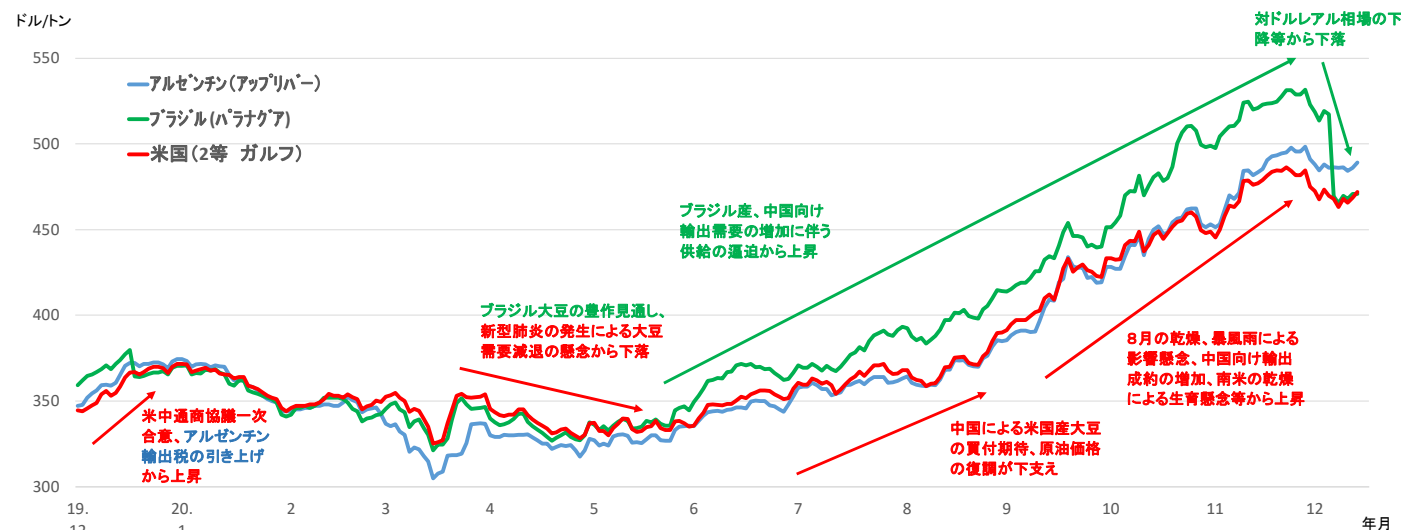
大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	120.5	96.7	113.5	－	17.4
消 費 量	60.4	62.0	63.5	0.4	2.5
うち搾油用	56.9	58.9	59.7	0.4	1.4
輸 出 量	47.7	45.6	59.9	－	31.2
輸 入 量	0.4	0.4	0.4	－	▲ 2.4
期末在庫量	24.7	14.3	4.8	▲ 0.4	▲ 66.6
期末在庫率	22.9%	13.2%	3.9%	▲ 0.3	▲ 9.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.45	30.33	33.30	－	9.8
単収(t/ha)	3.40	3.19	3.41	－	6.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.6%増の133.0百万トンとなり、史上最高の見込み。深刻な干ばつ状態にあった南部の産地に11月末から12月中旬にかけて待望の降雨があり、土壌水分が供給された。12月上旬には、主産地のマトグロッソ州を含む中部から南東部の広い産地で降雨があった。南部のパラナ州での12月14日現在の開花率は38%となっている。南部のリオグランデドスル州での12月17日現在の作付け進捗率は88%で開花が開始している。ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきについて今後も注視が必要。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2020.12.10)によれば、生産量は、前年度より7.7%増の134.5百万トンで史上最高の見込み。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.5%増の48.1百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫の減少による供給量の制約から史上最大の輸出となった前年度より7.7%減の85.0百万トンの見込み。なお、世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国を維持する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、3月以降中国向け輸出が急増しており、2020年1～11月の輸出量は82.8百万トンで、前年同期比1.2倍となっているが、輸出可能量はわずかである。内訳は、中国が1位で60.6百万トンと全体の73%を占めている。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2021年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2020/21年度	2020年												2021年							
	1月	・	・	・	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	
夏とうもろこし	リオグランデドスル州等						作付 4.1(百万ha)						収穫 24.2(百万t)						収穫夏冬計 102.6百万t	
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 18.4百万ha												作付 14.3(百万ha)				収穫 78.4(百万t)			
大豆	マトグロッソ州、パラナ州等						作付 38.2(百万ha)						大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種							

資料：CONAB穀物レポート(2020.12.10)

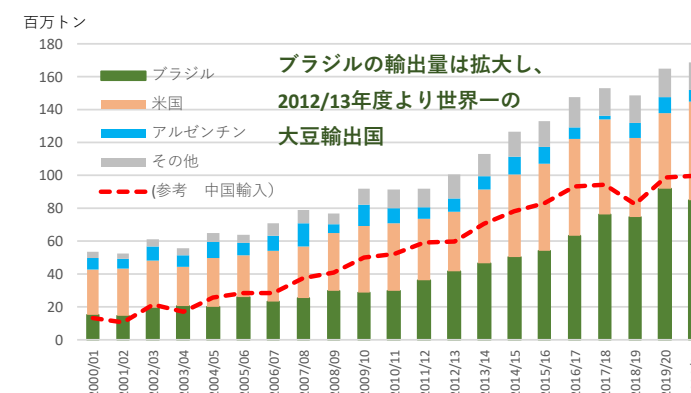
大豆ーブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	119.7	126.0	133.0 (129.5)	-	5.6
消費量	45.2	46.5	48.1 (…)	-	3.5
うち搾油用	42.5	44.3	45.5 (…)	-	2.8
輸出量	74.9	92.1	85.0 (…)	-	▲ 7.7
輸入量	0.1	0.6	0.4 (…)	-	▲ 27.3
期末在庫量	32.5	20.4	20.7 (…)	0.1	1.5
期末在庫率	27.0%	14.7%	15.6% (…)	0.1	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.90	36.90	38.60 (40.30)	-	4.6
単収(t/ha)	3.33	3.41	3.45 (3.21)	-	1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 December 2020)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2020.12.10)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、ラニーニャ現象に伴う降水量不足や不安定な経済状況を背景とした輸出税などの経済政策の影響で主に収穫面積が下方修正され、前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より2.5%増の50.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所(2020.12.17)によれば、作付進捗率は68%で、過去5年平均より7ポイントの遅れ。土壌水分量が低いため、広い地域で作付け作業の進捗が引き続き遅れている。コルドバ州南部、ブエノスアイレス州中西部における水不足は第2期作の作付けに遅延を生じさせている。作付け作業の再開には新たな降雨が必要な状況。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、生産量の下方修正と低調な搾油ペースから前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より0.9%増の46.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、中国向け輸出における米国、ブラジルとの競争の激化から、前年度より29.8%減の7.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020年1～10月の輸出量は6.7百万トンで、前年同期より19.8%減。内訳は、1位が中国5.4百万トン(81%)、2位がエジプト57万トン(9%)となっている。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、2段階で、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から30%、さらに最大33%へ引き上げた。その後、2020年10月1日に外貨準備高の増加を促進する目的で大豆関連商品の輸出税率の一時的な引き下げを発表した。大豆の輸出税は、10月は30%に引き下げられるものの、11月に31.5%、12月に32%に引き上げ、2021年1月には再び33%に戻る。

写真：北部サンタフェ州の大豆圃場の風景
(12月5日撮影)
11月前半に作付けされ、10月～11月の降雨により生育は順調。
収穫作業は2021年3月下旬の予定。



大豆－アルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	55.3	48.8	50.0 (48.5)	▲ 1.0	2.5
消 費 量	47.5	45.8	46.2 (…)	▲ 1.0	0.9
うち搾油用	40.6	38.8	39.0 (…)	▲ 1.0	0.6
輸 出 量	9.1	10.0	7.0 (…)	－	▲ 29.8
輸 入 量	6.4	4.9	4.0 (…)	－	▲ 18.0
期末在庫量	28.9	26.8	27.6 (…)	▲ 0.2	3.0
期末在庫率	51.1%	48.1%	51.9% (…)	0.6	3.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.60	16.70	16.70 (16.40)	▲ 0.20	－
単収(t/ha)	3.33	2.92	2.99 (2.96)	▲ 0.03	2.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 December 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 December 2020)

< 中国 >

【生産・生育状況】中国国家统计局「2020 全国糧食生産量データ」(2020.12.10)によれば、2020 年の生産量は、作付面積、単収ともに増加し、前年度より 8.3%増の 19.6 百万トンの見込み。

USDA によれば、2020/21 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 3.3%減の 17.5 百万トンの見込み。11 月上旬時点で、収穫はすでに終了した。

【需給動向】USDA によれば、2020/21 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、アフリカ豚熱の甚大な影響から回復し、養豚数の増加により大豆粕需要が高まることから、前年度より 7.5%増の 117.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、養豚産業の大豆粕需要の高まりにより前年度より 1.5%増の 100.0 百万トンで史上最高の見込み。

中国財政部は、2020 年 2 月 14 日に、米中通商協議一次合意に伴い、米国産大豆の追加関税 30%のうち、2019 年 9 月追加分の 5 %分を半減させ、追加関税を 27.5%まで引き下げた。さらに、財政部は、2 月 18 日、1 年間の期限付きで、輸入業者に対して、米国産大豆を始め豚肉、牛肉等の米国産品に関し、追加関税の免除手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020 年 1～10 月の輸入量は 83.2 百万トンと、前年同期比で 18%増。内訳は、ブラジル産 60.4 百万トン (73%)、米国産 14.0 百万トン (17%)。なお、10 月の輸入量は、ブラジル産 (4.2 百万トン) が米国産 (3.4 百万トン) を依然として上回ったものの、米国産の収穫終了に伴い、輸入先は徐々に米国産に切り替わるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 10 月号」によると、10 月に新穀大豆の収穫が終盤となり、10 月初めから中旬にかけて市場に集中的に出荷されたことから 10 月の国内価格 (山東省の国産大豆工場渡し価格) は下落したものの、5,340 元/トンで依然高水準である。なお、10 月下旬は農家の売り惜しみで再度上昇した。一方、10 月の国際価格 (山東省の輸入大豆価格) は 3,760 元/トンと前月から 6%上昇し、内外価格差はさらに縮小した。

大豆—中国

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、OはOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	16.0	18.1	17.5 (17.9)	-	▲ 3.3
消 費 量	102.0	109.2	117.4 (…)	-	7.5
うち搾油用	85.0	91.5	99.0 (…)	-	8.2
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	11.1
輸 入 量	82.5	98.5	100.0 (…)	-	1.5
期末在庫量	19.5	26.8	26.8 (…)	-	-
期末在庫率	19.1%	24.5%	22.8% (…)	-	▲ 1.7

(参考)

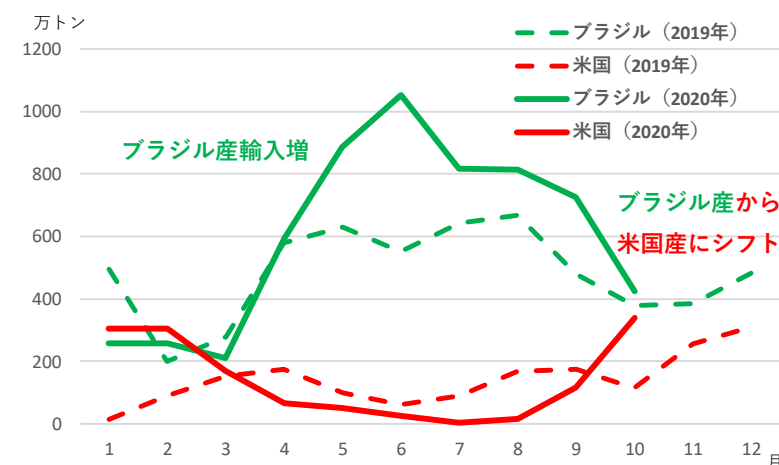
収穫面積(百万ha)	8.41	9.30	9.30 (9.42)	-	-
単収(t/ha)	1.90	1.95	1.88 (1.90)	-	▲ 3.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 December 2020)

OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 December 2020)

図：中国におけるブラジル・米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、市場の不確実性や近年乾燥により収穫量が減少していること等から農家が大豆の作付けを減らしていることにより収穫面積は前年度より減少したものの、オンタリオ州、マニトバ州の単収の上方修正から前月予測から0.3百万トン上方修正され、前年度より3.3%増の6.4百万トンの見込み。9月から10月にかけての温暖で乾燥した天候により、前年度より早く収穫が開始され、11月中旬時点で、ほぼ終了した。

なお、カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2020」(2020.12.3)によれば、収穫面積は前年度より減少したものの、生育期の天候に恵まれ、特にオンタリオ州やマニトバ州で単収が増加したことから、前年度より3.5%増の6.4百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、生産量の上方修正に伴い、前月予測からわずかに上方修正され、前年度より18.8%増の2.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、生産量の上方修正に伴い、前月予測から0.4百万トン上方修正され、前年度より7.5%増の4.2百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位：百万トン)

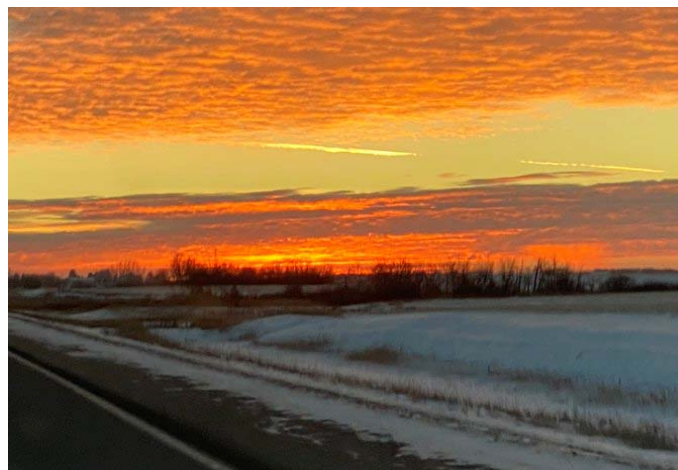
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.4	6.1	6.4 (6.2)	0.3	3.3
消費量	3.3	2.5	2.9 (2.5)	0.0	18.8
うち搾油用	2.1	1.7	2.0 (1.9)	0.1	14.8
輸 出 量	5.3	3.9	4.2 (4.2)	0.4	7.5
輸 入 量	1.2	0.3	0.6 (0.4)	-	109.1
期末在庫量	0.7	0.7	0.5 (0.7)	0.0	▲ 34.1
期末在庫率	8.2%	11.3%	6.6% (10.1%)	▲ 0.1	▲ 4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.54	2.27	2.04 (2.05)	0.04	▲ 10.1
単収(t/ha)	2.92	2.71	3.11 (3.04)	0.06	14.8

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 December 2020)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 November 2020)

写真：カナダ西部の大豆収穫後の圃場風景
(12月7日撮影)
雪に覆われている。



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2020/21年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	20年6月～21年5月	20年9月～21年8月	20年8月～21年7月	20年9月～21年8月
カナダ	20年8月～21年7月			20年8月～21年7月
豪州	20年10月～21年9月		21年3月～22年2月	
EU	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		
中国	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月
ロシア	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		20年9月～21年8月
ブラジル		21年3月～22年2月	21年4月～22年3月	20年10月～21年9月
アルゼンチン	20年12月～21年11月	21年3月～22年2月		20年10月～21年9月
タイ			21年1月～12月	
インド	20年4月～21年3月		20年10月～21年9月	
ベトナム			21年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2020/21年度は、米国の小麦では2020年6月～2021年5月、ブラジルのとうもろこしでは2021年3月～2022年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が 2020 年 12 月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しました。英国の小麦に関する情報についてはEUの小麦のコーナーで取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-6744-2368（直通）
------------	---